

軍事機密

別冊第三

掩體構築要領

昭和十七年十二月一日  
第五飛行師團司令部

1294

一一般西女領

敵機ハ晝夜ヲ通シ滑走地區ニ平行ニ特ニ滑走地區ノ兩端ニ對シ爆  
撃シ其ノ爆撃ハ破片及爆風ニ依ル損害豫想外ニ大ナルヲ以テ是等  
攻撃法及爆撃威力ニ對シ極力損害ヲ減少スル如ク分散配置ニ徹  
シ直撃彈ニ依ル損害ヲ避ケ又ニ飛行機ノ燃彈等ノ炎上ニ依ル損害ヲ  
他ニ波及セシメザルト共ニ破片及爆風ニ依ル損害ヲ極力局限シ且  
謀者ニ對シ機種機數ヲ秘匿シ得ル如ク全般ノ配置及經路ヲ  
定ムルモトス

之飛行場ヲ設定セバ設定基準ハ分散要領用途及數等ニ應シ構  
築シ別命ヲモ場合ニ於テハ常ニ大型一戰隊ニ應ズル掩体並ニ燃彈

用掩体ヲ構築スルモノトス

3. 掩体構築ニ方リテハ特ニ地形地物ヲ利用活用シ特ニ偽装遠慮ニ留意スルモノトス

4. 馬來地區ニ在リテモ構築スルモノトス

## 二、經始

1. 飛行機用掩体ハ四型ヲ通常トシ側壁ノ高サハ大、中型用ハ四米、小型用ハ三米トシ幅員ハ各按種ニ應ズル如ク經始スルト共ニ取要行ハ大トシムルモノトス

2. 飛込火機風ニ依ル損害減少ノ爲ニハ「□」型ノ前面ニ防壁又

此種の間ニモ所ニ應ジ防堤ヲ設クルモトス

ス。照彈用掩体ハ同型又ハ回型ヲ通常トシ側壁ノ高サハ收容ノ  
數量ニ依リ適宜定ムルモトス

既設建物ヲ利用スル場合ニ於テハ右ト同一經始ノ掩体ヲ設クルモト  
トス

地形上洞窟式ヲ採用シ得ル場合ニ於テハ特ニ之ヲ獎用ス

特ニ燃料流失ニヨル炎燒ヲ防止スル如ク著意スルモトス

ハ兵用掩体ハ個人用掩体若クハハ型又ハ型ニ經

始シ幅員約七〇糎、深サ一米ニ〇トシ

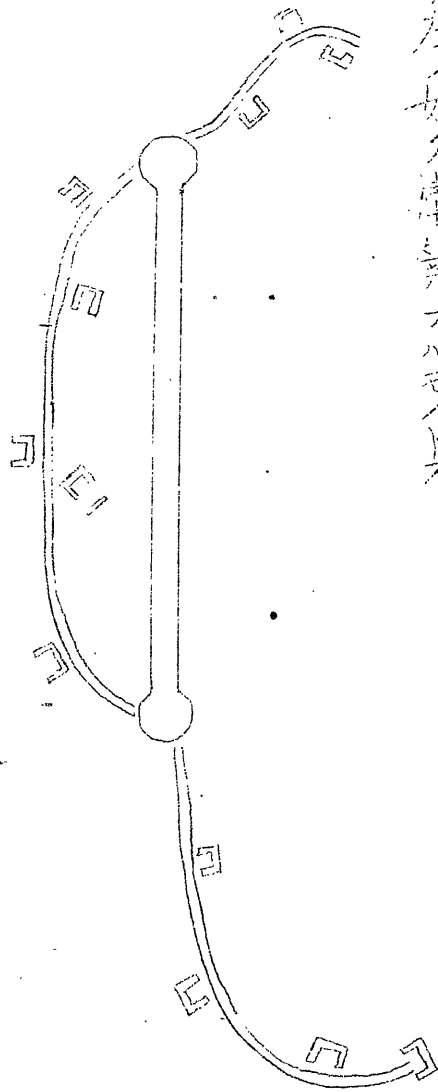


射架及牆ヲ設ノ且糸隊

指揮掌握容易ナル如ク構築スルモノトス  
 三掛築位置ノ選定

飛行機用掩体

繫留位置ヲ大規模ニ飛行場外ニ擴張シ主トシテ飛行場外ニ  
 構築シ特ニ遮蔽ニ留意ス。飛行場外ニ構築シ得サル場合ニ於テハ  
 努力テ左ノ如ク構築スルモノトス。



1. 掩体ノ位置ハ滑走路ヨリ概ネ $100$ 米以上離隔セシムルモトス  
2. 掩体個々ノ間隔ハ概ネ $10$ 米ヲ離隔セシメ止ヲ得サルモセ $10$ 米ハ側壁ノ  
間隔)以上ヲ離隔セシムルモトス

ハ掩体ノ配置ハ絶對ニ入口ヲ相對セシテ若クハ同一方側特ニ滑走路ニ出  
セシムルコトナク且直線上ニ配置セズ特ニ滑走路ニ平行シテ構築スル  
ヲ避クルモトス又滑走路両端附近若クハ同延長線上ニ増集セシメサル

モトス

2. 燃彈用掩体

飛行用掩体ニ準ズ

飛行場附近ニ構築スルモノニ在リテハ飛行機用掩体ト爲メテ急遽撤去シ  
且燃料、彈藥ヲ同一場所ニ集積セザルモノトス

掩体内ニ於ケル收容數ニ関シテハ別ニ示ス

3. 人員用掩体

居住施設、各勤務ノ場所並ニ道路ノ要所ニ構築スルモノトス

4. 重要器材ノ掩体

通信所等ノ家屋外ニ隨時轉移シ任務遂行ニ支障ナキ如ク掩体ヲ  
作ルト共ニ器材ヲ防護スルモノトス

四、現在ノ掩体ヨリノ改築

1. 飛行機用掩体ハ全部で飛行場外ニ誘導路ヲ構築シ新築スル  
モトス。飛行場内ニ現存スル掩体ハ不要又ハ飛行妨碍ニナルモノ逐  
次除去シ必要モノハ前諸項ニ依リ配置、經始等ヲ變更強化スルモト  
ス

2. 燃彈用掩体

經始ヲ變更ス

3. 人員用掩体

經始ヲ變更ス

五、各飛行場ニ應ズル掩体ノ構築位置ノ細部ニ関シテハ地區部隊



ニ於テ計畫スルモイトス

1302